文部科学省　地域イノベーション戦略支援プログラム
関西ライフイノベーション戦略プロジェクト

2014 年度

起業を視野に入れた「ライフサイエンスビジネス MOT」講座

神戸大学連携創造本部と公益財団法人都市活力研究所はライフサイエンスビジネスに関わる地域人材の育成を目的として、大学院博士課程、ポスドク、企業若手研究者・事業開発担当者を対象に、第 3 回「ライフサイエンスビジネス MOT」を開講します。

国内外の産業界の第一線で活躍する方々をお招きし、MOT（技術経営）の要素を加えたオムニバス形式の講義を実施いたします。講義を通じて、生命医学系産業全般の現状、課題ならびに将来展望等、ライフサイエンスビジネスのグローバルな知識や考え方を得る場として頂きます。

“結びつける”ことによってイノベーションは生まれます。今回は都市活力研究所「バイオ講座」の連携講座として、リーダーシップを持ってイノベーションを起こす研究開発・事業開発・起業についても学ぶ為の、知財やファイナンスなどの実践的な技術経営に関連するテーマも盛り込まれています。

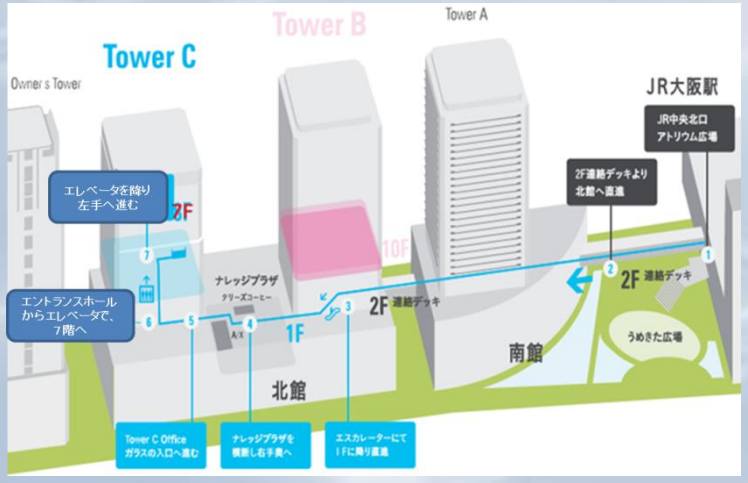
本講座は少人数制として、受講される皆様の異分野・異業種の地域交流を促すことも目指しております。大学院生やポスドクの方にも、講師の先生との議論やグループワークを通じてイノベーションネットワークを広げ、世の中の動向を知る機会としてぜひ参加頂ければと思います。

【開講期間】

2014 年 9 月 6 日（土）より 12 月 6 日（土）まで　全 7 回
（土曜日　午後 2 時～午後 6 時　交流会・グループワークを含む）

【会場】

公益財団法人都市活力研究所　セミナー室
大阪市北区大深町 3 番 1 号グランフロント大阪　タワーC　7 階　（地図）



【主催】
神戸大学連携創造本部
公益財団法人都市活力研究所

【対象者】
ライフサイエンス関連の研究開発、事業に携わる、

- 企業・研究機関の若手研究者 ・事業開発担当者
- 大学院後期博士課程学生・ポスドク、若手研究員・教員

【プログラム詳細情報】 神戸大学連携創造本部へのリンクからご覧下さい
【募集定員】 25 名程度
【参加費】 無料 (交流会費は 1000 円/回 学生は無料))
【受講上の注意】

- 7 回通しで出席することを前提として申込をお願いします (スポット参加は別途相談の上受付けます)
- 第 1 回オリエンテーションには必ずご出席ください
- 各講義の習熟度・内容・受講者の感想などを把握するため、アンケートにお答え頂き、プログラム終了時にレポートの提出をお願いします
- 5 回以上の出席、および受講基準を満たした方には神戸大学連携創造本部より修了証を授与します

【申込先】https://ssl.kokucheese.com/event/entry/189528/

【締切】2014 年 8 月 25 日 (月)
定員になり次第、受付を終了いたします。

【問合せ先】
神戸大学連携創造本部：担当 森 TEL：078-803-5945
E-mail: hicd-tiiki-life@office.kobe-u.ac.jp
公益財団法人都市活力研究所：担当 味村 (ミムラ) TEL：06-6359-1322

第 3 回「ライフサイエンスビジネス MOT」

会場：　公益財団法人都市活力研究所　セミナー室
（グランフロント大阪　タワーＣ　７階）
時間：　14:00～18:00

日程		講師	タイトル
1	9/6（土）	森　一郎 神戸大学連携創造本部	オリエンテーション
		能見　貴人 サノフィ株式会社	リーダーシップと組織パフォーマンス
		交流会	
2	9/20（土）	土井　尚人 株式会社ヒューマン・キャピタル・マネジメント	身近なチャンスに気付き、成果を上げる
		松本　弥生 塩野義製薬株式会社	オープンイノベーション －企業主導公募型医薬品研究シーズ発掘の試み－
		グループワーク	
3	10/4（土）	坂田　恒昭 塩野義製薬株式会社	バイオ技術概論 －製薬業界の研究開発動向、およびその技術動向－
		梶原　大介 GE ヘルスケアジャパン株式会社	世界の医療技術/医薬品開発の課題と GE Healthcare の取り組み
		交流会	
4	10/18（土）	Jeremy Gale Pfizer Inc.	R&D Strategy at Pfizer -Translational and Biomarker-Based Decision Making in Drug Development-
		北地　達明 有限責任監査法人 トーマツ	ライフサイエンスビジネスとファイナンス
		グループワーク	
5	11/1（土）	卯津羅　泰生 淀川キリスト教病院	成長戦略における健康・医療産業の現状と今後の方向性
		橋本　康弘 株式会社シリコンバレーテック	医療産業における知的財産戦略とイノベーション創出 －米国シリコンバレの成功要件－
		交流会	
6	11/15（土）	山本　秀策 山本特許法律事務所	世界の知財ビジネス最前線と日本の知財戦略
		Anne Mensink Food Valley organization	Food Valley NL - where food ideas grow Developments in the Nutrition and Health domain
		グループワーク	
7	12/6（土）	安達　宏昭 株式会社　創晶	バイオベンチャーの醍醐味と苦労話
		まとめ/交流会	

第 3 回　ライフサイエンスビジネス MOT　講師略歴

2014 年 9 月 6 日（土）

Director, External Science & Partnering Japan, Sanofi R&D

能見　貴人

【タイトル】

リーダーシップと組織パフォーマンス

【概要】

今日、あらゆる場面でリーダーシップの重要性が叫ばれているが、一方でリーダーシップとは何かという問いに明確に答えられる人は少ない。多くの場合リーダーシップとマネジメントが混同され、組織でのリーダーシップ開発が間違った方向に進められているケースも少なくない。本講では、リーダーシップに関する様々な疑問に答えつつ、リーダーシップの本質を定義し、リーダーとして心に留めておくべき要素を解説する。

【略歴】

- ◆ Director, External Science & Partnering Japan, Sanofi R&D（2014～現在）
- ◆ 製薬研究開発&事業開発 コンサルタント（2007～2014）
- ◆ リーダーシップ開発 コンサルタント（2007～2014）
- ◆ 幼児の創造性開発のための教室　主宰（2008～2014）
- ◆ GSK 筑波研究所　所長（2002～2007）
- ◆ GSK 筑波研究所　生物科学研究部　部長（1999～2007）
- ◆ ノバルティス 移植研究領域　マネジャー（1996～1999）
- ◆ 岡山大学工学部生物応用工学科　助教授（1990～1996）
- ◆ 大阪大学産業科学研究所　助手（1986～1990）
- ◆ Roche 分子生物学研究所　ポスドク（1989～1990）
- ◆ 東京大学大学院薬学研究科 修了（1986）薬学博士
- ◆ 岡山大学薬学部 卒業（1981）

第 3 回　ライフサイエンスビジネス MOT　講師略歴

2014 年 9 月 20 日（土）

株式会社　ヒューマン・キャピタル・マネジメント

代表取締役社長

土井　尚人

【タイトル】

身近なチャンスに気付き、成果を上げる

【概要】

用意周到に物事を進めているとき、新しい現象を自然に見つける方法があります。法律変更や人工分布の変化は事業機会を明示します。また、お客様からの問い合わせや、普段の会話の中に事業機会は潜んでいます。事業機会を見つける方法として特に成功確率が高い視点について事例を挙げながら説明し、自らのチャンスを考える機会を提供します。

【略歴】

- ◆ 起業家／インキュベーター／商学修士
- ◆ 安田信託銀行において、関連事業の立ち上げやグループ会社の立ち上げを行う経営企画部門のほか、本店営業部や札幌支店などで融資・株式公開支援などに従事。その後道内コンサルタント会社にて、新規事業の立ち上げや起業家研修の企画運営に従事。2002 年 7 月に株式会社ヒューマン・キャピタル・マネジメントを設立し代表取締役就任。インキュベーション会社として東証一部上場企業から個人開業飲食店まで様々な会社の開業や新分野進出支援に携わるほか、資金調達や組織活性化コンサルティング、官公庁や商工会議所、金融機関が主催する起業家向けセミナーや経営者向けの経営塾、第二地銀協会主催分も含め金融機関の　目利き研修等を企画・運営・講師として活動している。
- ◆ 起業、人材育成、事業戦略、北海道の魅力アピールに関わる執筆、銀行研修社発行の「ビジネスモデル」教本や文部科学省編集の「大学発ベンチャーマニュアル」なども執筆。
- ◆ 北海道大学発ベンチャー ㈱イーベック代表取締役社長として 2008 年には国内バイオベンチャー初の欧米大手製薬企業とのアライアンスを実現（一時金・マイルストーン総額 55 ミリオンユーロプラス売上に応じたライセンスフィー）、また 2011 年にはアステラス製薬株式会社とのアライアンスも実現（一時金・マイルストーン総額 130 億円プラス売上に応じたライセンスフィー）するなど、経営者としても実績を積み重ねる。
- ◆ 経済産業省のイノベーションや産学連携・バイオ関係のマネージャーや委員を務める他、神戸をはじめ北海道から沖縄まで多くの地域の経済関連委員や補助金等の審査員を務める。
- ◆ 創業・ベンチャー国民フォーラム起業家支援部門会長賞受賞
- ◆ ＪＡＮＢＯ　ＡＷＡＲＤ　インキュベーション大賞受賞
- ◆ 産学官連携功労者表彰内閣府科学技術政策担当大臣賞受賞

第 3 回　ライフサイエンスビジネス MOT　講師略歴

2014 年 9 月 20 日（土）

塩野義製薬株式会社

グローバルイノベーションオフィス　インキュベーショングループ　課長補佐

松本　弥生

【タイトル】

オープンイノベーション
ー企業主導公募型医薬品研究シーズ発掘の試みー

【概要】

医薬品産業を取り巻く環境の急激な変化の中、自前主義では画期的な新薬を創出することが困難になった製薬企業がとったオープンイノベーションの試み「シオノギ創薬イノベーションコンペ（通称、FINDS)」の構築、運用方法について紹介する。また、グローバル化が叫ばれる中、FINDS をグローバル化した際の問題点などについても触れたいと思う。

【略歴】

- ◆ 短大卒業後、塩野義製薬株式会社に入社し、臨床検査部、診断薬部門、創薬研究所にテクニシャンとして勤務。
- ◆ その後、医薬研究開発本部に異動し、産からアカデミアに働きかける新しい産学連携プロジェクトであるシオノギ創薬イノベーションコンペの立ち上げから担当する。(法学修士、神戸大法学研究科博士後期在学中)

第 3 回　ライフサイエンスビジネス MOT　講師略歴

2014 年 10 月 4 日（土）

塩野義製薬株式会社

グローバルイノベーションオフィス　シニアフェロー

坂田　恒昭

【タイトル】

バイオ技術概論

－製薬業界の研究開発動向、およびその技術動向－

【概要】

製薬業界の最近の研究開発動向、およびその技術動向、それを通じてバイオベンチャーや研究機関に望むことについてお話しいたします。

【略歴】

1977 年(昭和 52 年)　大阪大学・理学部・生物学科卒業
1979 年(昭和 54 年)　大阪大学大学院・理学研究科・生理学専攻修了　（理学修士）
1990 年(平成 2 年)　医学博士（東北大学･医学部･生理学専攻）

1979 年(昭和 54 年)　塩野義製薬株式会社入社
現在　塩野義製薬株式会社・Global Innovation Office・シニアフェロー
1985 年(昭和 60 年) ～1987 年(昭和 62 年)
京都大学・ウイルス研究所・細胞ウイルス部門　研究員
1990 年(平成 2 年) ～1991 年(平成 3 年)
米国カリフォルニア大学・ロスアンゼルス校（UCLA）・外科学･泌尿器学教室・客員研究員
1995 年(平成 7 年)　～1997 年(平成 9 年)
（株）　ディナベック研究所・第一研究室・室長
1999 年(平成 11 年) ～現在
神戸大学大学院理学研究科生物学専攻分子薬理学講座・客員教授
2002 年(平成 14 年) ～2011 年（平成 23 年）
大阪大学サイバーメディアセンター・特任教授
2009 年（平成 21 年）～現在　武庫川女子大学薬学部・非常勤講師
2011 年（平成 23 年）～現在　大阪大学サイバーメディアセンター・招聘教授
2011 年（平成 23 年）～現在　大阪大学大学院基礎工学研究科・特任教授
2014 年（平成 26 年）7 月～現在　徳島大学産学官連携推進部・客員教授

第 3 回　ライフサイエンスビジネス MOT　講師略歴

2014 年 10 月 4 日（土）

GE ヘルスケア・ジャパン株式会社　ライフサイエンス統轄本部

サイエンティフィックサポート営業部　課長

梶原　大介

【タイトル】

世界の医療技術/医薬品開発の課題と GE Healthcare の取組み

【概要】

医療の高度化、個別化が求められる中、医薬品もそれに適応した開発が求められている。GE Healthcare は医薬品開発における研究・製造用機器を含めた様々なソリューションを提供している。今回は、特にバイオ医薬品の研究開発に関わる技術を中心に、GE Healthcare の取り組みをお話しする。合わせて、医療技術開発に関わる取り組みに関してもお話しする。

【略歴】

- ◆ バイオ医薬品の製造に関わる機器、試薬等の技術的なサポート業務に従事する傍ら、大阪大学リーディングプログラムの外部担当教員を担当し、ライフサイエンスにおける人材育成にも注力
- ◆ 2000 年、岡山大学大学院生体機能応用工学専攻修士課程を修了後、アマシャム・ファルマシア・バイオテク株式会社に入社
- ◆ 2006 年、岡山大学大学院自然科学研究科にて博士（工学）の学位を取得後、GE ヘルスケア　バイオサイエンス株式会社に入社
- ◆ プロテオミクス、細胞イメージング、分子間相互作用技術の学術サポート及び販売戦略の立案業務を経て 2013 年より現職

第 3 回　ライフサイエンスビジネス MOT　講師略歴

2014 年 10 月 18 日（土）

Pfizer Inc.　Executive Director

Jeremy Gale

【タイトル】

R&D Strategy at Pfizer

-Translational and Biomarker-Based Decision Making in Drug Development-

【概要】

High levels of programme attrition continue to threaten the sustainability of the pharmaceutical industry in its current model. A leading cause of development candidate attrition remains lack of efficacy in phase 2 proof-of-concept studies, which is often only revealed following substantial investment. In recognition of this, the Industry continues to develop and apply innovative strategies for early decision making, facilitating investment in those programs with the highest probability of technical success. In recent years there has been a dramatic increase in the use of biomarkers to demonstrate the engagement of target pharmacology and by extension, to predict clinical efficacy. Further, application of techniques of modeling and simulation is being made to drive down timelines and costs to key decision points. In parallel, there has been an increased focus on developing an understanding of the translational value of the experimental models, both preclinical and clinical, upon which we make decisions across the continuum of drug discovery and development.

Examples of these approaches, taken from several therapeutic areas for drug development, will be presented for discussion to illustrate the potential value of these strategies.

【略歴】

- Education

1985　BSc Pharmacology
1988　PhD Neuroscience and Pharmacology
2005　Diploma and University Professional of Advanced Studies in Pharmaceutical Medicine
2011　Postgraduate Award in management of Chronic Kidney Disease

- Career

1988-1995　Glaxo Group Research , Research Leader, GI Pharmacology
1995-present　Pfizer Global R&D

Section Leader
- Manager- Sexual Health
- Associate Director-Experimental Medicine
- Director and Senior Director-Translational Medicine and Clinical Research
- Senior Director and Team Leader-Bio Therapeutics

- Expertise

Gastroenterology, Hepatology, Nephrology, Women’s Health, Dermatology
Early clinical development, biomarker research, translational medicine

第 3 回　ライフサイエンスビジネス MOT　講師略歴

2014 年 10 月 18 日（土）

有限責任監査法人　トーマツ

アドバイザリー開発部長　公認会計士

北地　達明

【タイトル】

ライフサイエンスビジネスとファイナンス

【概要】

バイオベンチャーを中心にしたライフサイエンス業界でのファイナンスの特長についてお話します。
この業界ではベンチャー領域はもっともベンチャーらしく、製薬においても同規模の他業界に比べて極めてユニークなファイナンス戦略を組みます。
また新しい取り組みにも次々チャレンジしているので、現在の業界の状況について大きく理解していただけるような内容で講義いたします。

【略歴】

1983 年　中央大学経済学部卒業
1985 年　会計士補取得、サンワ東京丸の内事務所(現　有限責任監査法人トーマツ)入所
1996 年　監査法人トーマツ（現　有限責任監査法人トーマツ）　社員(パートナー)就任
2003 年　同　代表社員就任　（現行制度では呼称はパートナーに統一）
2012 年　東北大学大学院工学研究科博士後期課程終了
2012 年　有限責任監査法人トーマツ　アドバイザリー開発部長就任
2013 年　同　経営会議メンバー就任

専門領域：
中堅・ベンチャー企業領域に関わる以下の領域（主として技術型ベンチャー）株式公開、M&A 等コーポレート・ファイナンス、監査・調査、社内整備

著書：
「株式公開全ノウハウ」「ベンチャー企業の経営と支援」「ベンチャーマネジメントの変革」
「日経文庫/M&A 入門」「ストックオプションの実務」「企業再編の税務」（以上日本経済新聞社）
「店頭登録実務ハンドブック」「ベンチャー企業成功の方程式」「動き出した産学連携」（以上中央経済社）
「よくわかる M&A」「よくわかる連結経営」「よく分かる株式公開」「会計がわかる事典」「M&A 実務の全て」（以上日本実業出版）

第 3 回　ライフサイエンスビジネス MOT　講師略歴

2014 年 11 月 1 日（土）

淀川キリスト教病院 事業統括本部 局長付 課長

神戸大学 連携創造本部 客員教授

健康科学ビジネス推進機構 事務局 世話人

卯津羅　泰生

【タイトル】

成長戦略における健康・医療産業の現状と今後の方向性

【概要】

成長産業の１つである健康・医療分野の置かれている現状、その課題や方向性について最新の動向を踏まえながら説明し、ディスカッションします。
また、神戸や大阪の置かれている現状、国の中における位置づけ等についても学びます。

【略歴】

- ◆ 国立大学法人 神戸大学 連携創造本部 客員教授
- ◆ 健康科学ビジネス推進機構 事務局 世話人
- ◆ 淀川キリスト教病院 事業統括本部 局長付 課長

第 3 回　ライフサイエンスビジネス MOT　講師略歴

2014 年 11 月 1 日（土）

株式会社　シリコンバレーテック　代表取締役社長

日本ゲノム薬理学会　理事

橋本　康弘

【タイトル】

医療産業における知的財産戦略とイノベーション創出
－米国シリコンバレーの成功要件－

【概要】

情報技術の進歩により、世界の政治・経済・産業に大きな変化が起き、多くの技術開発や医学研究開発の在り方にも大きな変化が起きている。情報アクセスのフラット化により、伝統的な生産は人件費の低い国や地域へと移行し、その一方で先進国は、高い知識や技術力を要する知的付加価値の高いイノベーション基盤にした産業を生み出している。このような環境変化のもと、医療やバイオテクノロジーなどの高い知的付加価値を基盤にする産業は、欧米が世界他の地域に比較し圧倒的に優位に産業化に成功している。

米国シリコンバレーがイノベーション創出のメッカとなった背景を分析し、知的付加価値を基盤にする産業の成功の要件を検討する。

またイノベーション生み出し続ける、シリコンバレーやボストンが取り組む活動や現状を紹介し、日本でイノベーション創出に必要な要件を考えてみたい。

【略歴】

1983 年　大阪大学医学部卒業
1983 年　米ハーバード大学医学部。研究員
1986 年　米ペンシルバニア大学医学病理学部助教授、准教授。
1993 年　日本シンテックス株式会社（現：中外製薬株式会社）免疫研究所長。
1997 年　日本グラクソ株式会社筑波研究所の分子生物研究部門および遺伝子部門部長。
2000 年　メディビック（現・メディビックグループ）設立。代表取締役社長。
2003 年　メディビックグループ　東京証券取引所マザーズ上場。
2004 年「経済産業大臣賞（起業家部門）」受賞。
2004 年　「2004 年デロイト トウシュ トーマツ 日本テクノロジーFast50」第 1 位受賞 。
2005 年　ストランドライフサイエンス社（インド：バンガロール） 取締役 （2013 年まで）
2013 年　株式会社メディビックグループ　及び　グループ関連会社代表取締役社長　退任
2014 年　株式会社シリコンバレーテック　創業
2014 年　日本ゲノム薬理学会　理事

第 3 回　ライフサイエンスビジネス MOT　講師略歴

2014 年 11 月 15 日（土）

山本特許法律事務所

弁理士

山本　秀策

【タイトル】

世界の知財ビジネス最前線と日本の知財戦略

【概要】

アベノミクスの第３の矢「成長戦略」の一つに知財がある。企業や国の成長に知財が必要というのは何故か？そもそも知財とは何？企業・国の成長に知財をどのように位置づけどう作り上げ、それをどう活用し利用するのか、その結果、企業・国は何を果実として手に入れることになるのか、知財先進国の米国知財後進国のアジアはどうしているのか、などを通じて事例も 紹介しつつ、今後の日本の知財戦略を考えたい。

【略歴】

1966 年 大阪大学工学部醗酵工学科
1966 年 キッコーマン株式会社
1974 年 弁理士登録
1978 年 米国 Armstrong, Nikaido, Marmelstein & Kubovcik
1978 年 米国 The Catholic University of America Law School
1979 年 USPTO Patent Academy
1979 年 山本秀策特許事務所　開設
2003 年 山本秀策特許事務所　東京事務所　開設
2004 年 特定侵害訴訟代理業務の付記
2007 年 山本秀策特許事務所　福岡事務所　開設
2014 年 山本特許法律事務所に改名し、グランフロント大阪タワーＣ１７階に移転
（専門：バイオテクノロジー、生化学、微生物学、ライセンシング）

第 3 回　ライフサイエンスビジネス MOT　講師略歴

2014 年 11 月 15 日（土）

Food Valley organization

Anne Mensink

【タイトル】

Food Valley NL – where food ideas grow

- Developments in the Nutrition and Health domain -

【略歴】

Work Experience

At present: Director International Relations & Projects
Senior Scientific Officer
Food Valley organization

2007: Business consultant
National Institute for Public Health and the Environment (RIVM) -
Centre for Infectious Disease Control
- Policy, Management and Advice Unit

2004-2007: Director Laboratory for Zoonoses and Environmental Microbiology
National Institute for Public Health and the Environment (RIVM)
- Centre for Infectious Disease Control

1997 -2003: Director Gastrointestinal Biology and Deputy to the General Manager (1999 ～)
Numico Research B.V. (now part of Danone).

1991 – 1996: PhD student
Wageningen University and Research Centre – Department of Toxicology

Thesis: 'Modulation of Gap Junctional Intercellular Communication between Human Smooth Muscle Cells by Leukocyte-derived Growth Factors and Cytokines in relation to Atherogenesis', 1997

Education

1991 – 1995 Various modules of the Postgraduate Programme Toxicology
(various universities, the Netherlands)

1991 Experimental Oncology (Netherlands Cancer Institute, Amsterdam)

1985-1991 Molecular Sciences , with distinction (Wageningen University)

1979 -1985 Pre-university education, with distinction (Edith Stein College)

第 3 回　ライフサイエンスビジネス MOT　講師略歴

2014 年 12 月 6 日（土）

株式会社　創晶

代表取締役社長

安達　宏昭

【タイトル】

バイオベンチャーの醍醐味と苦労話

【概要】

大阪大学発ベンチャー「株式会社創晶」を設立し、早くも 10 年目になります。異分野連携による技術開発から始まり、産学連携、企業同士の業務提携など、補完的な関係が構築できるパートナーと連携することで、新しい価値を創出してきました。当日は、その体験談をご紹介します。

【略歴】

- ◆ 大阪大学大学院工学研究科電気工学専攻修了、 博士（工学）
- ◆ 日本ガイシ株式会社、大阪大学大学院工学 研究科助手を経て、2005 年 7 月から現職（株式会社創晶　代表取締役社長）
- ◆ 2013 年 4 月には子会社となる株式会社創晶應心を設立し、代表取締役社長に就任
- ◆ 現在、大阪大学大学院工学研究科の特任准教授や社会福祉法人あおば福祉会の理事、柴又運輸株式会社の顧問などを兼任